

平成27年10月

河川浚渫土砂利活用促進検討会

設 立 趣 意 書

河川の浚渫は、堆積した土砂により侵された河積の拡大を図り、河道の有する流下能力を最大限に活かすものであり、治水効果を保持する重要な施策である。

現在、土砂堆積の状況や洪水時の被害の影響など、優先度の高い箇所から、順次浚渫を行っている。浚渫土砂は、粘土や泥土が多く、木くずの混入もあるため、公共事業への流用など再利用されているのは、4割程度にとどまっている。また、再利用されない浚渫土砂については、処分に多額の費用を要することなどコスト面の課題もある。

一方、浚渫土砂には、骨材として利用できる材料を含んでおり、資源として有効活用できれば、山砂利採取の代替となり環境負荷を軽減することが可能と考えられることから、浚渫土砂の処分にかかるコストの低減を図りつつ、利活用をさらに進める必要がある。

このため、産学官連携による検討会を開催し、様々な視点で、利活用の障害となっている要因や分別・処理に関する既存技術の改良などを検証し、新たな利活用策の確立に向け検討していく。